



さりげない差し色や素材感が優美な輝きを与える



1 リビングの大きな窓から差し込む光が、大理石の床に美しい影を落とす。2 キッチンからリビングを望む。対角まで見渡せる開放的な空間で、常に家族の気配を感じることができる。インテリアの一部は、以前の住まいで使用していた家具をリニューアルしたもの。カウチも布地を張り替えた。クッション、カーテンのタッセルと共にモスグリーンで統一して空間のアクセントに。3 ホワイトカラーで統一した爽やかなキッチン。北東に位置し、東側に大きく開口をとることで十分な明るさを確保している。右手前には地下に続く階段があり、書斎とガレージ、家族専用の玄関へとつながる。



空間を広く見せながら
装飾で華やかさをプラス

横浜の高台にある閑静な住宅地で暮らすIさんは、4人の子供の成長、お母さまとの同居といったライフスタイルの変化に合わせて、建て替えを決意しました。希望したのは、華やかでありながら派手すぎず、モダンな住まい。「飽きのこないデザインにしたけれど、ガラスの箱のような空間は苦手。ヨーロッパの宮廷を思わせる優美さを感じる家にした」というIさんに、アーネストが提案したのは、視界の広がりや計算して全体をすっきりと見せながらも、ディテールで華やかな要素を盛り込んでいくプランでした。

たとえば、訪れたゲストが最初に目にするエントランスホールには、吹き抜けを設けた美しいらせん階段を配置。ゲストは階段を見上げるかたちになり、吹き抜けからさらにトップライトへと視線が抜けるため、空間に広がりを感じられます。そこに、階段を彩る黒の手すりとワインレッドのカーペットが気品を与え、まるでコンサートホールのようにドラマティックなスペースです。

リビングへと続く扉にもカットガラスをはめ込み、視線のスクエを確保。扉を開けると、壁や天井にモールドインクを配するなど、やわらかな白で統一しながらも華やかな要素をほどこく取り入れた空間が目前に広がります。キッチンには、やはり白を基調にまとめたスペース。ここでもパカラの赤のライト、戸棚のゴールドの金具といった「差し色」をさりげなく効かせ、ラグジュアリーな雰囲気仕上げてきました。

一方、機能面では7人が住む大家族ならではの工夫も。地下1階には家族専用の玄関を設けました。その奥の階段を上った先は、1階のキッチン。キッチン横のユーティリティを抜ければ、リビングを通ることなく、2階へとつながる階段に到達できます。リビングにゲストがいるときでも、家族が個室のある2階と外とを気兼ねなく行き来できるようにとの配慮から生まれたアイデアです。収納をたっぷりとするのはもちろん、ひな飾りや来客用の寝具といった長くしまわれることの多いアイテムはすべて採寸し、専用のスペースを用意。2階のパウダールームには1階のユーティリティにつながるランドリースペースを採用するなど、目立たないところにもこだわって、住み心地を追求しています。